



丘 珠

札幌市立丘珠中学校 学校だより 第13号
令和7年3月14日発行

ホームページ

<https://www.okadama-j.sapporo-c.ed.jp>



本日（3月14日）、本校体育館で、第40回の卒業証書授与式を行いました。保護者の皆様はもちろん、在校生にも見送られ、66名の卒業生が立派に巣立っていきました。卒業生の今後のご活躍をお祈り申し上げます。



式 辞

校 長 吉 田 剛 大

暖かな日差しで雪解けが進み、丘珠の大地に春の気配が感じられる今日の佳き日に第40回卒業証書授与式を挙行できますことを心より御礼申し上げます。

旅立ちの時を迎えた66名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、お子様の御卒業、心よりお祝い申し上げます。また、本校の教育活動に多大なる御理解と御協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さんが今、手にしている卒業証書は、義務教育9年間の締めくくりとなる中学校3年間の課程を修了した証です。卒業証書を手にした喜びと合わせ、これまで皆さんの健やかな成長を願い、温かく見守ってこられた御家族の方々と初め、様々な場面で多くの方々の支えがあったことをしっかりと胸に刻んで欲しいと思います。

今、次のステージへ新たに踏み出そうとしている皆さんの心の中には、様々な思い出が渦巻いていることと思います。皆さんと一緒にいった東北地方での修学旅行。中国に伝わる伝統的な影絵、皮影戲（ピーインシー）の人形作成や芸術鑑賞会。そして、最上級生として楽しく、様々な工夫を凝らして行った珠玉祭。どれもが素敵な思い出です。そして、皆さんが素晴らしい成果を残し、後輩たちのよき手本となって、丘珠中学校を力強く良い方向へと導いてくれました。本当に感謝しています。

これからそれぞれが自分の道を進むことになります。新しい生活では様々な場面で上手く行かなかったり、困難に直面したりすることがあるかもしれません。そのような時には、丘珠中学校で過ごした日々を思い出してください。たくさんの仲間や先生が応援しています。いつまでも丘珠中学校は皆さんを見守っています。

結びになりますが、卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業、本当におめでとうございます。中学校生活は、人生の中で最も心身が大きく変化する時期です。この大切な時期を、保護者の皆様をはじめとする多くの人たちの支えがあったからこそ、卒業生は無事に乗り切ることができました。これからも温かく見守っていただくと共に、今後も人生の先輩としてのアドバイスをお願いいたします。

卒業生の皆さん。今年度、本校は開校40年を迎えました。卒業生は4,000人を超えています。多くの先輩たちに続き、丘珠中学校第40期生として今後も自らの可能性に大いに挑戦して下さい。卒業生の皆さんが、丘珠中学校の卒業生であるという誇りを胸に、心身ともに健康で、大きく飛躍されることを心から願い、式辞といたします。

よろこびのことば

卒業生代表 植根 佑妃

モエレの山が春の日に照らされて鮮やかに輝く日も増え、日々の景色が春の色に染まっていく季節となった今日、私たちは旅立ちの日を迎えました。本日は私たち卒業生のために、多くの皆様のご臨席の下、このような晴れやかな卒業式を挙行していただいたことに、卒業生一同を代表して心より御礼申し上げます。

振り返ると、丘珠中学校での時間は瞬く間に過ぎていったように思います。

3年前の2022年の4月、私たちは新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、この場所で入学式を迎えました。マスクで見えない互いの顔、黙食などの制限もあり、上手くコミュニケーションがとれず、友達はできるのか、3年間制限のある学校生活が続くのか、不安で息が詰まりそうになっていました。しかし、日が経つにつれ、少しずつお互いのことが分かってきて、徐々に不安はこれからの学校生活への期待に変わっていきました。

2年生となり初めて「先輩」と呼ばれるようになった頃には、新型コロナウイルスによる制限も少なくなり、今まで以上に仲間と共に学業や部活動に励めるようになりました。2年生としての生活にも慣れた頃、宿泊研修や珠玉祭が昨年とは違い、新型コロナウイルス流行前とほとんど同じ形で行えるようになったことで、さらにクラスメイトのことを知ることができ、私たちは友情を深め合うことができました。

そして最上級生である3年生となり、自身の進路と向き合いながら、それぞれが今まで培ってきた力を最大限に活かして受験へと挑戦していきました。それは自分との戦いであり、仲間との支え合いでもありました。

学校生活にも妥協せず、私自身、自分の成長を最も感じることであったのは、今年度の珠玉祭です。40周年記念ということもあり、昨年度までとは違った試みが多くあった分、生徒会役員や顧問の先生との間で、すれ違いや意見の衝突もありました。ですがそのたびに一人ひとりが珠玉祭と向き合い、自分にできることを考え、話し合いを重ねていくことで、協調性をもちながら企画、運営を行うことができました。周りを見ると、実行委員として学級をまとめている人、学級の発表を成功させるために全力を尽くす人、発表の質をより良くするよう、音響や照明として役割を果たす人など、たくさんの人たちが自分の役割を果たし、協力したことで珠玉祭は成功したのだと実感しました。また、私を含め、それぞれの人が自分自身にしかできないような成長をしたのだと感じました。

この長く短い3年間は、私たちに勉強だけでは決して学び得ることのできない、多くの思い出や成長をくれました。この思い出や成長が、私たちにしかない友情が、培ってきた力が、ここでしか得られなかった、かけがえのない宝物です。

私たちがこうして成長することができたのは、たくさんの方々の支えがあったからです。

時に優しく、時に厳しく、私たちが悩んでいる時には自分のことのように悩んでくださり、間違った方向へ進みそうになった時には心を鬼にして叱ってくださった先生方。私たちがより成長できるような環境を整えてくださった職員のみなさん。私たちが安全に生活できるよう、陰ながら支えてくださった地域の方々。そして誰よりも私たちのことを思い、いつでも心強い味方でいて、支えてくれた家族。

一人でも出会えず欠けていれば、こうして仲間と笑い、励ましあい、成長できた今日はなかったでしょう。私たちはたくさんの方々への感謝を胸に、誇りをもって、今日丘珠中学校を旅立ちます。

在校生の皆さん、私たちは今日、この学校を去ることになります。これからの学校生活に不安もあるかもしれませんが、みなさんにはこれまで共に過ごしてきた中で培ってきた経験があります。そんなみなさんならきっと、丘珠中学校の伝統を大切にしながら新たな後輩たちにバトンを繋いでいけるはずです。たくさんの方々に支えられているということを忘れず、感謝の気持ちを胸に、これからも成長し続けてください。みなさんがこれまで以上に活躍し、この丘珠中学校をより発展させていくことを期待しています。

私たちは、本日をもって丘珠中学校を卒業し、それぞれの道を歩んでいきます。ここで出会えた、たくさんの人たちとの別れは寂しくもありますが、ここで得た多くの学びや思い出が消えることはありません。この先大きな壁にぶつかったとしても、この丘珠中学校で得た思い出や経験を糧とし、誰のものでもない自分自身の人生を力強く生きていきます。

結びになりますが、今まで私たちの中学校生活に携わってくださった全ての方々に御礼申し上げますと共に、丘珠中学校の益々の発展を心より祈念し、答辞といたします。